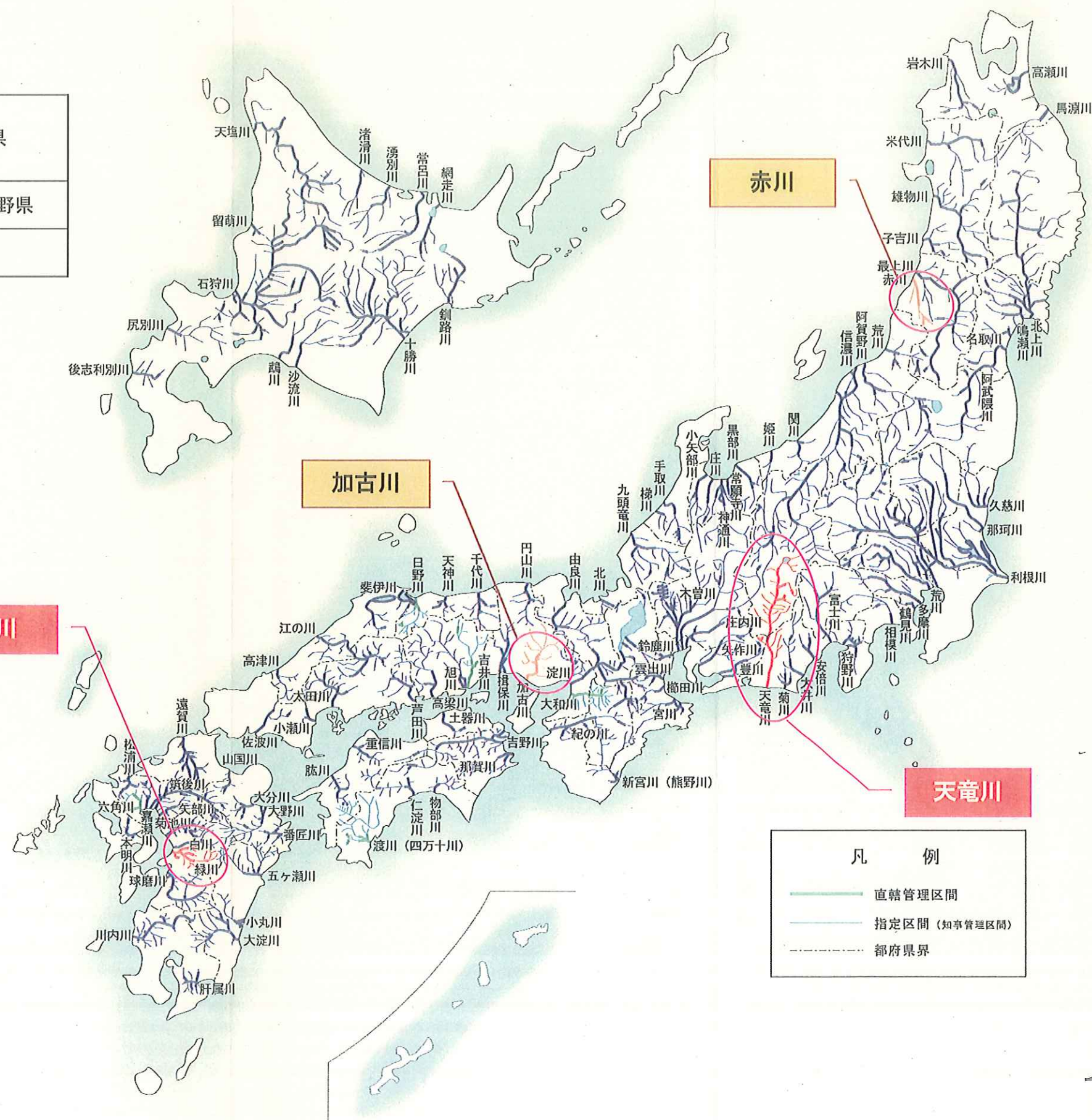
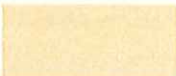


資料 1

水系名	流域面積 (km ²)	幹川流路 延長 (km)	流域内 人口 (千人)	想定氾濫 区域内 人口 (千人)	流域の主な県
天竜川	5,090	213	722	460	静岡県、愛知県、長野県
緑川	1,100	76	517	150	熊本県

水系名	流域面積 (km ²)	幹川流路 延長 (km)	流域内 人口 (千人)	想定氾濫 区域内 人口 (千人)	流域の主な県
天竜川	5,090	213	722	460	静岡県、愛知県、長野県
緑川	1,100	76	517	150	熊本県



	本日の河川分科会での審議水系	2水系
	基本方針検討小委員会で審議中の水系	2水系
	河川整備基本方針策定済み水系 (手続き中を含む)	100水系

天竜川水系河川整備基本方針(案)の概要

流域及び河川の概要

- 八ヶ岳を源流とし、諏訪湖に流水を集めた後、天竜川として長野県南部、愛知県東部、静岡県西部を貫いて太平洋に注ぐ
- 上流部は狭窄部と盆地が交互に繋がる地形で、中流部は約100kmに及ぶ山間狭窄部を流れ、下流部は扇状地が広がる。狭窄部上流の盆地や下流扇状地に人口資産が集積しており、ひとたび氾濫すると甚大な被害が発生
- 中央構造線等が縦断しており、崩壊しやすい地質を構成



流域及び氾濫域の諸元

流域面積(集水面積) : 5,090km²
 幹川流路延長 : 213km
 想定氾濫区域内人口 : 約46万人

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 既存施設の有効活用を図るとともに、関係機関及び水利使用者等と連携して水利用の合理化を促進することにより、必要な流量の確保に努める。
- 鹿島地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、通年で概ね86m³/sとし、もって流水の適正な管理、河川環境の保全、円滑な水利使用等に資するものとする。
- 宮ヶ瀬地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、6～9月は概ね28m³/s、10～5月は概ね25m³/sとし、もって流水の適正な管理、河川環境の保全、円滑な水利使用等に資するものとする。

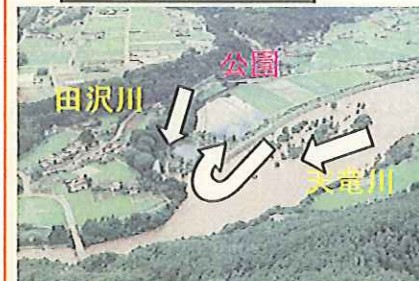
災害の発生防止又は軽減

- 既定計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、雨量データによる確率からの検討、既往洪水による検討、1/100確率規模モデル降雨波形による検討等により総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に、基本高水のピーク流量を基準地点 天竜峡で5,700m³/s、基準地点 鹿島で19,000m³/sと設定

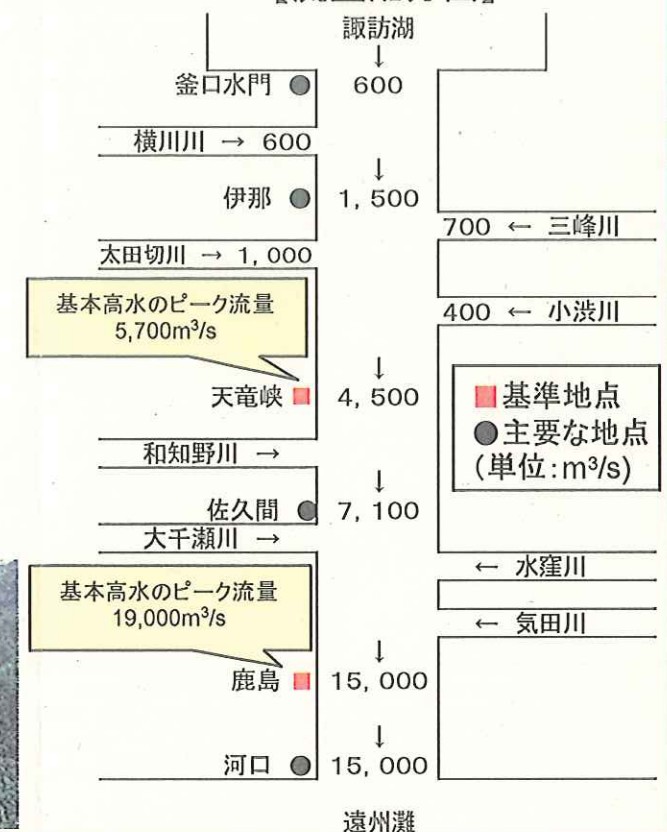
- 洪水調節については、既設洪水調節施設等の有効活用を図るとともに、洪水調節施設の整備により対応
- 堤防の拡築、河道掘削により河積を増大させるとともに、河岸侵食等に対して護岸等を整備
- 諏訪湖では、釜口水門の放流量を段階的に向上させるとともに、流入支川の改修を図る
- 狭窄部上流部等において、貯留効果や氾濫水を戻す効果等を有する霞堤があることから、その維持・保全に努める
- 上流から海岸までの総合的な土砂管理の観点から、河床材料や河床高等の経年的な変化だけでなく、粒度分布と量も含めた土砂移動等の定量的な把握に努め、治水面及び環境面における土砂管理の目標や海岸線維持に必要なとされる供給土砂量を設定し、土砂対策を実施。

霞堤の保全

既設洪水調節施設



【流量配分図】



河川環境の整備と保全

- 諏訪湖においては、フナ等の産卵、生息等に適した湖岸植生の保全・再生に努める。
- 上流部においては、砂礫河原、アユなどの生息する砂礫床の瀬・淵、ダルマガエルなどの生息・繁殖するたまりや湧水、ヤマセミ等が利用する河畔林の保全・再生に努める。
- 中流部においては、溪流環境の保全に努める。
- 下流部においては、コアジサシが営巣する砂礫河原、アユの産卵床となる砂礫床の瀬、ムササビ等が生息・繁殖する河畔林、ミヤマシジミ等が好む水辺の植物、メダカ等が生息・繁殖する支川合流部、タコノアシ、カワヂシャ、カヤネズミ等が生育・生息・繁殖している湿地の保全・再生に努める。



ヨシ群落と水辺植生
(諏訪湖)



崖地・河畔林の保全
(上流部 210.4k付近)



砂礫河原
(下流部 12.5k付近)

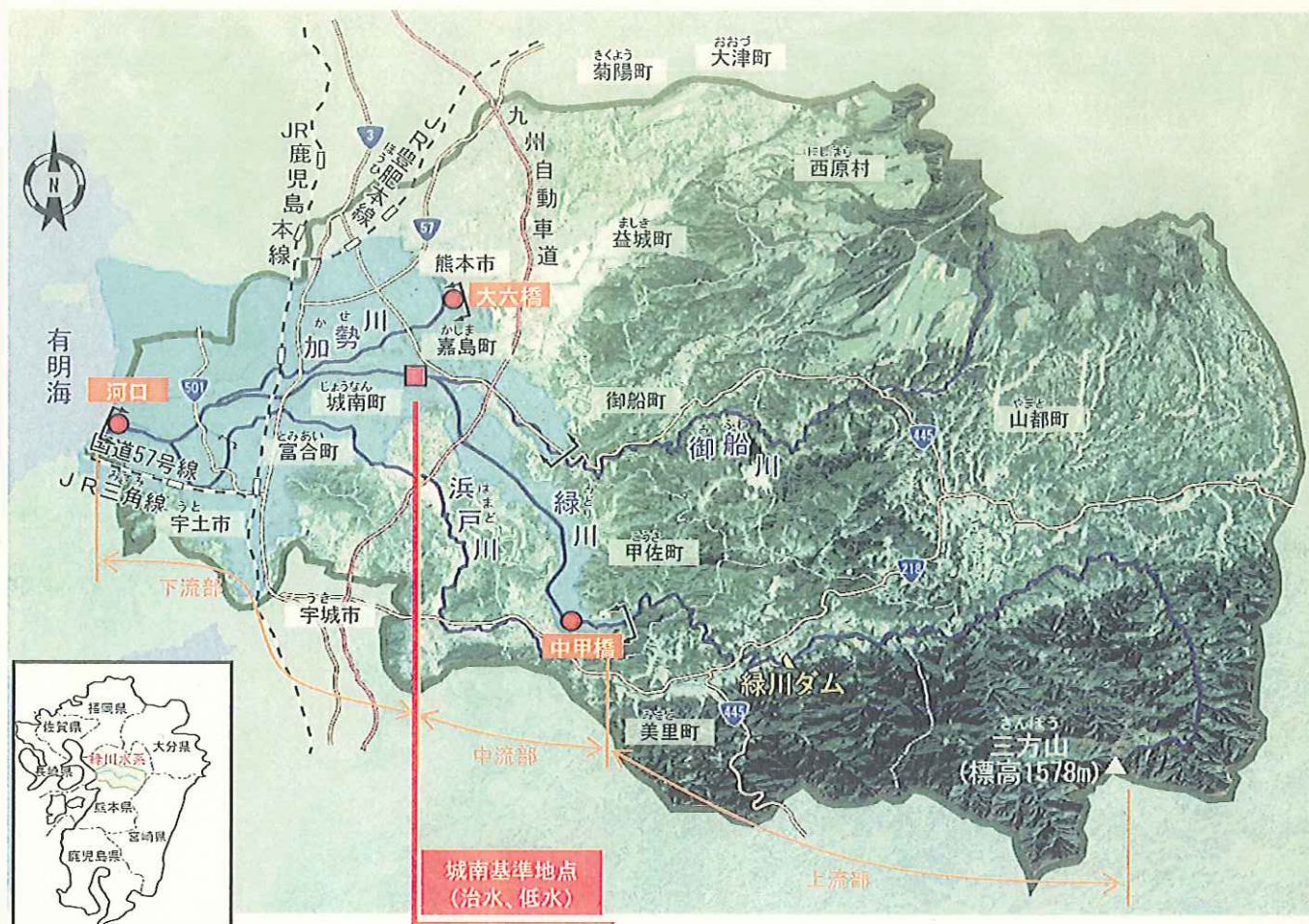


アユの産卵場となる瀬
(下流部 8.6k付近)

緑川水系河川整備基本方針(案)の概要

流域及び河川の概要

- 低平地となる下流部（熊本市等）に人口・資産が集積しており、ひとたび氾濫すると甚大な被害が発生
- 阿蘇火砕流堆積物に代表される透水性の高い地質で構成され、江津湖などの湧水地が多く存在
- 年平均降水量は約2,100mmで全国平均（約1,700mm）の約1.2倍



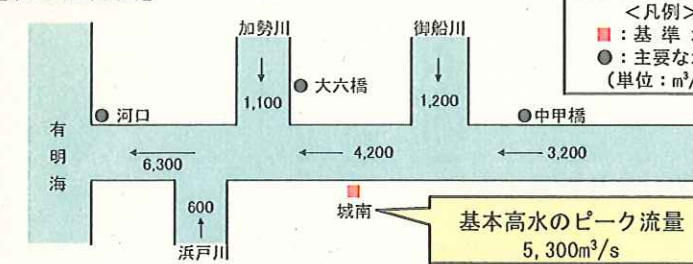
流域及び氾濫域の諸元
 流域面積（集水面積）：1,100km²
 幹川流路延長：76km
 想定氾濫区域内人口：約17万人

凡 例			
	流域界		想定氾濫区域
	鉄 道		市町村界
	高速道路		既設ダム
	主要道路		基準地点
	直轄管理区間		主要地点

災害の発生防止又は軽減

- 既定計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、雨量データによる確率からの検討、既往洪水による検討、1/100確率規模モデル降雨波形による検討等により総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に、基本高水のピーク流量を基準地点城南で5,300m³/sと設定
- 洪水調節については、緑川では既存洪水調節施設の有効活用も含めた対応を関係機関と調整し検討するとともに、新たな洪水調節施設により対応。加勢川では関係機関や住民等との連携・調整のもと、氾濫の形態や沿川の状況等を考慮しつつ、新たな洪水調節施設により対応
- 樹木伐開、堤防の新設・拡築、河道掘削、固定堰の改築等により流下能力を増大させるとともに護岸等を整備。多くの湧水や自噴帯が存在するため、地下水への影響等について十分調査検討の上、河道掘削等を実施
- 治水対策を早期かつ効果的に進めるため、河道や沿川の状況等を踏まえ、住民との合意形成を図るとともに、関係機関と連携・調整を図りつつ、輪中堤や宅地の嵩上げ等により洪水被害の低減を図る

【流量配分図】



河川環境の整備と保全

アユの産卵場



加勢川の旧河道



河口に広がる干潟



ムツゴロウ

- 上流部においては、ヤマメ等が生息・繁殖する溪流環境の保全に努める。
- 中流部においては、アユやスナヤツメ等が生息・繁殖する瀬・淵や細流、コアジサシ等の営巣地等となっている砂礫河原、魚付き林となっている河畔林等の保全に努める。
- 下流部においては、汽水域でムツゴロウ等が生息する干潟やオオヨシキリ等の繁殖・採餌場となっているヨシ原の保全に努めるとともに、アリアケシラウオ等については、今後、詳細な生息・繁殖環境調査を踏まえ、保全策を検討する。
- 支川加勢川においては、タナゴ類の避難場所等として利用されている旧河道とその周辺との連続性の保全、中ノ瀬橋付近に見られるヒラモやコウホネ等の沈水・抽水植物の生育・繁殖環境の保全・復元に努める。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の確保に努める
- 城南地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、通年で概ね6m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利用、河川環境の保全等に資するものとする